

2018



# ATTO REPORT

## ご寄付のお願い

寄付があることで子どもたちの学習のサポートや、安心できる居場所づくりをすることができます。  
皆さまの暖かいご支援をお待ちしています。

### マンスリーサポーターになる

月々1000円からの継続的なご寄付で子どもたちをサポートする方法です。

#### WEB サイトから申し込む

クレジットカードからの月々の引き落としか、口座からの引き落としを選択することができます。

あっとクルー

検索

▶ <https://atto-school.com/attocrew>

### 今回のみサポートする

継続的ではなく、ご都合の良いときに任意の金額でサポートする方法です。

#### クレジットカードで寄付する

クレジットカードから任意の金額を引き落としさせていただきます。

あっとクルー

検索

▶ <https://atto-school.com/attocrew>

#### お振込で寄付する

口座振込をご希望の方は、QRコードを読み込んでいただくか、右記URLのフォームよりお申込みください。後ほど口座情報をお送りいたします。

▶ <https://ws.formzu.net/dist/S14238114>



特定非営利活動法人  
あっとすくーる

法人設立日 2012年3月30日(団体設立日:2010年3月6日)  
理事長 矢野 剛(やの つよし)  
所在地 〒562-0003  
大阪府箕面市西小路 2-7-22 MKM友ビル301号室

Tel / Fax 072-702-0020  
Mail [info@atto-school.com](mailto:info@atto-school.com)  
Web <https://atto-school.com>

ANNUAL REPORT

特定非営利活動法人あっとすくーる

# 2018

## ANNUAL REPORT

## あっとすくーるが支える、 ひとり親家庭の社会的背景。

日本のひとり親家庭の世帯数は約140万世帯。決して少なくない数の家族が、経済的な意味ではもちろん、生活の中の様々な場面で困りごとを抱えている状況にあります。当事者として育った私たちは、その状況が「個人の努力では乗り越えることができない」ことを痛感してきました。同時に「十分に理解をもらえていない」ということも味わってきました。この報告書が、ひとり親家庭への理解を深める一歩になるように。まずは、ひとり親家庭が置かれている状況についてご覧ください。

# 50.8%

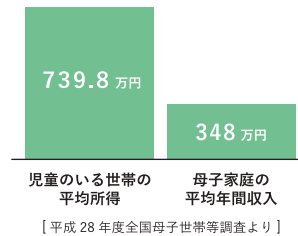
【H29年度子供の貧困の状況  
および子供の貧困対策の実施状況より】

### ひとり親家庭の相対的貧困率

7人に1人が貧困状態にあると言われる日本ですが、ひとり親家庭だけに限れば2人に1人の割合まで高くなります。他の先進諸国と比べても日本のひとり親家庭の貧困率は高く、世界的に見てもその貧困率の高さは際立ちます。

※相対的貧困率…世帯所得をもとに国民一人ひとりを並べたとき、真ん中の人の所得の半分未満にあたる人の割合。

01	代表挨拶	2
02	事業紹介	3
03	2018年度の3大ニュース	4
04	事業成果	5-7
05	これからの取り組み	8
06	高槻校のお話	9-10
07	対談	11-12
08	応援の声	13
09	会計報告	14



### ひとり親家庭の経済状況

日本のひとり親家庭の保護者の就業率は8割を超えます。つまり、「働いてないから苦しい」のではなく、「働いているけど苦しい」状態にあるひとり親家庭が多いということです。パート・アルバイトなどで働いている方が約半数を占め、その平均収入は348万円。児童のいる世帯の平均所得の半分にも届いていません。

# 24%

全世界では54%

【厚生労働省 H23年度調査より】

### ひとり親家庭の大学進学率

日本の子どもの大学進学率は5割以上。しかし、ひとり親家庭の子どもに限ると、大学進学率は約2割となります。一方で進学を希望している子どもは4割以上おり、「進学したいけど諦めざるを得ない」という状況にある子どもたちは少なくありません。



代表理事  
渡 剛  
Wataru Tsuyoshi

1989年熊本県生まれ。未婚の母子家庭で育つ。中学生時代に兄の借金や祖母の介護等で家庭の状況が急変。経済的にも精神的にも苦しい中高生時代を過ごす。お金の問題で大学進学を諦めかけるも、亡き父親の遺産で奇跡的に大学に進学。大学在学中に、自分の経験を基にあっとすくーるを設立し、今に至る。

地震で気づいたのは、「学習を通じて子どもたちの日常を支える」という存在意義。

2018年度は、試練の1年でした。中でも最大の試練は、6月18日に発生した大阪北部地震による被害で、渡塾高槻校の継続が難しくなったことでした。

「地震が起きて学校も休みになって、家にいないといけない。家が嫌だから外に出たいけど、外に出てまた地震が起きたらどうしようって思うと、外にも出れない。だから今、本当に辛い。」

子どもたちの安否確認をする中で聞こえてきたのが、一人の子どものこんな声でした。ひとり親家庭の子どもたちに学ぶ機会を届けようと始めた私たちの塾でしたが、子どもたちとの出会いを通じて「学ぶために必要な環境を整える」ことも役割の一つになりました。私たちはそれを「子どもたちの日常を支える」と表現しています。

その土台があっこそ、初めて学ぶ機会は意味を持ってくる。それを私たちは子どもたちから教えてもらいました。だからこそこの子の声を聞いたときに、「今こそ自分たちは子どもたちのそばにいないといけない。子どもたちの日常を支えないといけない。」と強く思いました。

地震があっ改めて、自分たちがこれまで作ってきた場所がどんな場所だったかを気づかせてもらいました。

大きな試練であったと同時に、大事なことを教えてくれたのが2018年度だったと思っています。その1年間を支えてくれて、ともに歩んでくれた皆様から感謝しています。本当にありがとうございました。10年目も、変わらずに応援してもらえたら嬉しいです。



学習支援事業

## 渡塾

子どもたちが「第2の家」と呼ぶ塾です。学びたくても学べない、学ぶ意欲がない、家や学校に居場所がない。そんな子どもたちの日々に寄り添いながら、一緒に進路を形作っていくサポートをしています。

行政委託事業

## 行政と協働した学習支援

塾では会うことの難しい、より困難な状況にある子どもたちにサポートを届けるために自治体より委託を受けて事業を行なっています。現在は大阪府箕面市、吹田市で委託事業を行なっています。



講演事業

## 講演

子どもや保護者の周りに理解して応援してくれる人を増やしていくために、行政機関や学校等で講演活動を行なっています。



## 2018年度の3大ニュース

1

大阪北部地震

2018年6月18日に発生した大阪北部地震。渡塾高槻校も被災し、塾の継続が困難になりました。

2

クラウドファンディング  
達成!!

渡塾高槻校再建のために、671名の方から15,472,672円のご寄付をいただきました。「第2の家」にふさわしい新教室で、これからも子どもたちを支えていきます。

3

b & g  
開所

日本財団より助成を受けて尼崎市に学童保育を開設しました。宿題のサポートはもちろん、一緒に遊んだりご飯を食べたり、子どもたちの放課後を支える居場所です。

スタッフ全員で3大ニュースについて話し合いました



# 渡塾

## 箕面校

### 進学率

塾生の約半数が受験生という状況でしたが、大学生の献身的なサポートのおかげで全員無事に合格できました！

100%

(中学:9/9名 高校生:2/2名)

75%

(24名のうち18名)

### ひとり親家庭の割合

以前塾に通ってくれていた生徒の弟や妹の入塾が多かった1年でした。

総  
評

生徒数が前年度ほど集まらなかったという課題が残りました。一方で、子どもの生活面の困りごとに対するフォローが例年よりできた1年でもありました。

## 高槻校

### 進学率

受験生は少なかったのですが、その丁寧なサポートができました！特に、中1から見てきた子の大学受験は感慨深かったです。

100%

(中学:3/3名 高校生:1/1名)

85%

(16名のうち14名)

### ひとり親家庭の割合

近隣の中学校の先生の紹介など、地域とのつながりが生まれたことで繋がってきた子どももいました。

総  
評

何よりも教室を再建することができたことが大きかった1年でした。教室移転後に近隣の中学校と連携ができたこと、これまでなかったつながりを多く作ることができました。

## EPISODE

最後まで諦めない

STAFF VOICE



本人の頑張りはもちろんですが、向き合った大学生の講師の存在も大きかったと思っています。単に授業をするだけでなく、現状を鑑みてどう日常を過ごす必要があるかというところまで一緒に考えている姿をよく見ました。まさに2人3脚で掴みとった合格でした。本当におめでとう！

## 大きな壁を乗り越える

少しずつ成績が伸びてきて、ついに自分から「300点」という大きな目標を掲げた一人の生徒がいました。「やったらできた」を積み重ねた先に出てきた彼のこの目標。結果は・・・301点！「今までで一番頑張った」と照れくさそうに言う彼。大きな壁を自分の努力で超えました。

STAFF VOICE



勉強はもちろんですが、授業外の時間での関わりも多かった生徒でした。震災後、はる遊食堂さんを借りて勉強していた時には一緒にご飯を食べながら話を聞いたりすることもありました。そうした時間の積み重ねで生まれた子どもと講師の信頼関係があったからこそその成果だと思えます。

# 行政と協働した学習支援

## 箕面

低学力、不登校など課題を抱える小学生～高校生が対象の事業です。その子に合わせた曜日・時間・場所でサポートを行います。

### 総派遣回数

2017年度に比べて総派遣回数は約2割減となり、大学生ボランティアの確保が年間を通じて課題となりました。

3127回

135名

### 利用者数

昨年よりも利用者が9名増えました。一方で進路未決定の中学生がいたり、サポートを充実させていくのが急務だと感じています。

総  
評

派遣回数の中で課題は残りましたが、福祉セクションの方々と会議の場を持ち、これまでできていなかったことに取り組めた1年でもありました。

## 吹田

生活困窮世帯で暮らす中学生が対象です。講師1人につき生徒が2人つく個別指導型で、週2回開催の教室を2ヶ所運営しています。

### 総実施回数

台風等の影響があり教室が休みになることも多かったですが、大学生の協力もあり前年度とほぼ変わらない回数を実施できました。

189回

1640名

### 延べ利用者数

今年度から中学3年生以外の学年の子どもたちが増え、これまで以上に時間をかけてサポートできるようになりました。

総  
評

スクールソーシャルワーカーの方々を通じて学校と情報共有がなったり、支援員の方々との連携が密になった1年でした。

## EPISODE

## 資格を取得し、

## 希望していた仕事に就職できました

中学2年生から事業を利用して一人の男子。高校受験の際は「受かる高校はない」と先生に言われていましたが、そこから必死の努力でなんとか私立の高校に合格しました。高校生になった彼がある日「将来福祉の仕事がしたい」と、夢を語ってくれました。それからは資格取得に向けてのサポートを行いました。そしてついにこの春、夢である福祉の仕事ができる病院に就職を決めました！

「高校に行くのが不安」受験も近づく冬のある日、一人の中3生がそう呟きました。いじめが原因で学校に行けなくなった自分が、本当に高校に行けるのだろうか悩んでいました。面談を重ね、彼の想いもたくさん聞きました。最終的に「やりたいこともあるから、高校に行きたい」と頑張る決意をした彼。そこから努力を積み重ね、周囲から厳しいと言われていた第一志望の高校の合格を勝ち取りました。

## 難しいのではないかと言われていた、

## 第一志望の高校に合格！

## 講演

### 講演参加者数

あっとすくーるが主に事業を行う北摂地域での講演が多く、その街で暮らす人々と子どもの貧困について考える機会を持ってました。

約 **500** 名

### 講演について

統計やメディアからは見えてきづらい子どもの貧困の実態を、現場で出会った子どもたちとのエピソードを通してお伝えしています。昨年度は箕面市や高槻市の職員研修や、私立高校にて講演を行いました。

**講演内容** | 子どもの貧困の現状について / 子どものサポート方法  
生活困窮世帯の学習支援について / 当事者の体験談を聞きたい

### EPISODE

「大学生になったら、勉強を教えるだけでなく、子どもたちの心の支えになって居場所を作れるような存在になりたいと思います。」とある高校での講演後、一人の生徒が感想文に書いてくれた文章です。彼女のように思ってくれる人が一人でも増えるよう、これからも気持ちを含めて話し続けたいと思います。

子どもたちを支えられる存在になれたら

あっとすくーるではじめました

## 子どもの家事業

b&gの取り組みを通して、子どもたちが大人との関係性を構築し、自立のために必要な基礎的習慣の構築を目指します。

### 信頼関係の構築

親でも教師でもない第三者による受容的関わり、日常的な関わりを通じた予防的介入。

### 生活習慣の形成

手洗い・うがいの習慣化、おやつ・夕食の提供、スタッフによる夕食後の歯磨き支援。

※状況により入浴支援を行えるよう入浴設備も完備。

### 学習習慣・読書習慣の形成

スタッフによる読み聞かせ、絵本や書籍の配置。

### 文化資本の形成

良質な芸術・音楽・映画などの文化的環境に囲まれることによる文化資本の形成。

### 貧困の連鎖をなくす

ために必要な、  
自立する力を養う。

家庭環境によって得られる機会・体験が制限される子どもたちがいます。b&gでの取組を通じて様々な機会や体験を提供し、生活習慣や学習習慣を身につけることで、貧困の連鎖を断ち切ることを目指します。

学習意欲	学習習慣
知識・技能	生活習慣
人や社会と関わる力	
思考 / 判断 / 表現力	

学習塾の方でも小学生コースの開講を予定していますが、これまで9年間学習支援を行ってきて感じていることの一つが、いかにしてより早く子どもたちに出会うかということです。従来の学習支援とは一味も二味も違うこの子どもの家事業に取り組むことを通じて、小学生の子どもたちに必要なサポートを考えていきたいと思っています。

様々な背景を持つ子どもが来ている中で、まずは、自分の気持ちや考えをちゃんと言葉で伝えられるようになることを中心に、子どもと一緒にステップを踏んでいければと思います。

STAFF VOICE



## あっとすくーるが次年度取り組むふたつのこと

### 小学生の学習支援の開始

2019年夏スタート

これまで塾を続けてきた中で「もう少し早くこの子に出会えていれば・・・」と思う子どもは少なからずいました。その時の想いは、今でもはっきり思い出せる後悔として僕らの中に残っています。より早く、学ぶ機会と安心できる居場所・つながりを届けることができるようになれば、大きく未来が変わる子どもたちも必ずいます。小学生から高校生まで、年齢に応じて課題も変化します。その変化する課題に丁寧に向き合い、子どもたちが社会に出て自らの意思で歩んでいけるように。10年目となる節目の年に、新しい挑戦を始めたいと思っています。

### ACTION

すでに一部の学校の先生等から「小学生を見てもらえないか」と相談を受けており、まずはその子たちを受け入れるための準備を進めています。夏休みの宿題サポートや、自由研究に使える理科実験教室という企画を予定しています。

### 奨学金で塾に通える生徒を増やす

年間300口の寄付を目指す

### ACTION

あっとすくーるのこと、そしてあっとすくーるを利用する子どもたちのことを知ってもらうために、2019年度より毎月1回、活動説明会を開催しています。さらに、今年度後半には法人設立10周年の記念イベントの開催も予定しています。

奨学金制度を始めた頃からの想いがあります。一つは、より高い目標に向かって頑張っている子どもが、お金を理由に諦めなくていいようにしたい。これ以上親に負担をかけたくないからと、学びたいという想いに蓋をしなくていいように。そしてもう一つ。そんな子達とは正反対で、将来に対しての希望を失っている子どもたちを支えたい。「やる気がある子ども」を支える仕組みは多くあります。ただ、将来への希望を失っている子どもたちこそ、誰かの支えなしでは進めません。どちらの子どもも大事にできる塾を、私たちは目指します。

# 大阪北部地震により、 なくなってしまった子どもたちの居場所。 たくさんの方の気持ちが集まってできた高槻校。

## ABOUT

渡塾高槻校は2015年10月に開校しました。それまでは高槻市ひとり親家庭福祉会様と連携して、毎週1回土曜日に学習支援を行なっていました。その教室で子どもたちと関わる中で週に1回のサポートでは十分に支えきれないことを痛感し、元々教室を行なっていた場所の近くで塾を開校することにしました。



## CROWDFUNDING

総支援額

15,472,672 円

達成率  
133%

支援者数  
671 名

大阪北部地震で被災した渡塾高槻校を再建するために、6月26日～7月30日の期間でクラウドファンディングを実施しました。西日本豪雨等、日本各地で自然災害が猛威を振るう中、671名の方がひとり親家庭の子どもたちの居場所を守るために寄付をしてくださいました。

新しい校舎で、  
その後子どもたちは、

木のぬくもり溢れる温かな空間のおかげもあり、子どもたちが塾で過ごす時間が長くなりました。授業だけではなく一緒にご飯を作って食べたり、子どもたちの生活の中にしっかりと入り込んでいます。



居場所として過ごすだけでなく、もちろん勉強も頑張っています。テスト前には授業だけでなく自習に来る子どもたちも。

## 大阪北部地震により高槻校がなくなったとき、 それぞれが感じたこと。



地震が発生し、高槻校の校舎が使えないと知った6月20日。このままだと子どもたちの居場所がなくなってしまうかもしれない。悪い想像が頭から離れず、どうしたら良いのか不安な気持ちでいっぱいでした。

職員 橋口



私はこの塾は子どもの「居場所」であると感じています。震災後初めて子どもたちと会った時、不安げだったその表情が徐々に柔らかくなっていく様子はこの塾が「居場所」としての役割を果たしていると感じたときでした。

学生講師 牛島くん

地震が起きる前の高槻校は週に1回の楽しい塾の日でした。けれど地震が起きてからは不安しかなかったです。余震も怖かったです。塾がつぶれてしまって、もう先生たちに会えないのかもと思いました。

生徒 片山くん

大阪北部地震によって子ども達は普段とは違った環境で学習していました。戸惑う子もいる中で大学生達は変わらず真剣に子どもと向き合っていました。この姿を見て信頼関係を築くことの大切さを感じました。

学生講師 居内さん



## 子どもたちの学びの場だけでなく、 子どもたちのことを考える、大人も使える場に。

高槻校の環境を活かし、新しいことにも挑戦していきたいと思っています。2019年度には小学生コースを開校予定ですが、教室の半分が量のスペースである高槻校では子どもたちが勉強後にゆっくりと過ごすことも可能です。勉強だけでなく、例えば理科の実験教室などのイベントを行う会場として最適な環境だと思っています。子どもたちに学びを届けるに留まらず、様々な体験や子ども自身が望むチャレンジの機会を多く作っていきたくと考えています。また、子どもがいない日中や日曜に貸しスペースとして開放することも考えています。実際に2018年度にはシングルマザーの資格取得をサポートする講座の会場として使用していただきました。量のスペースで子どもたちは遊び、授業のスペースで保護者の方が勉強をする。調理器具を用いて食事を作って提供するといった内容でした。あくまで一例ですが、このような形でサポートする事例も増やしていけたらと思っています。

**渡** 今日はよろしくお願いします！まずはじめに田中さんご自身の事を少し聞きたくて、自己紹介をしてもらってもいいですか？

**田中** 田中裕也と言います。29歳です。仕事は教育系のシステムの開発をしています。家族は結婚して子どもが一人です。2016年に高槻に引っ越してきました。

**渡** ありがとうございます。昨年のクラウドファンディングでご寄付をいただいた際、コメント欄にご自身もひとり親家庭で育てられたことが書いてあったんですが、その辺りって少しお聞きしてもいいですか？

**田中** 掘って掘って話せば話すほどドロドロとした話が出てきちゃうんですけど(笑)  
高校1年ぐらいの頃に両親が離婚したんです。父のリストラだったり、色々あって離婚に至った感じです。それでも何とかいい縁に恵まれたりして、その後の住居の問題なんかはなんとかなりました。

**渡** 結構大変な状況だったんですね・・・。高校卒業後は大学に行きましたか？

**田中** 同志社大学に行きました。

**渡** ちなみに奨学金とか借りられましたか？

**田中** これが結構な額を借りまして・・・

**渡** あ、僕もです・・・。今度、2人で当事者トークしましょうよ！奨学金だけで2時間くらい喋れそうです(笑)

**田中** ぜひやりましょう(笑)

**渡** 話を戻して、大学卒業後はどちらに？

**田中** 東京にあるミクシイっていう会社に入りました。

**渡** あのミクシイですか！僕らが大学生の頃流行ってましたよね。懐かしいなあ・・・。そこから大阪に帰って来られて高槻に住んでって感じなんですね。

**田中** そんな感じです。

### 自分も「参加」したい

**渡** ちなみに今回、どうやってうちのことを知ってもらいました？

**田中** 確かTwitterだったと思います。

**渡** でも、ご自身も被災されて大変な中ですよね？そんな中でどうして寄付をもらえたんだろうって気になってたんです。

**田中** これまでも赤十字さんとか、子ども関連のプロジェクトに寄付をしたことがあったんですよ。なので、僕にとって寄付をするというハードルが低かったっていうのはあります。もう一つは、高槻でそういう子どもたちを支

## 平成元年生まれのふたりが思う 「叶えたい未来」

寄付という行為の裏側にある想いをきちんと受け止めたくて、自身もひとり親家庭で育った当事者であり、高槻在住の平成元年生まれの二人には、「目指したい未来」も同じという共通点がありました。



高槻校再建プロジェクト寄付者  
**田中裕也**さん

あつとすくーる代表  
**渡剛**

える塾をやってくれていて、しかもひとり親家庭。高校生も塾に来てるっていうのを知って、自分が高校時代に大変だったっていうのもあって、やっぱりこれは応援したいって思ったんです。元々自分も何か参加したいという思いがあって、それが例え直接教えるとかでなくても、お金でもいいから参加したいと思ってたんです。

### 他人事ではない「子どもの貧困」

**渡** いや、もう本当に嬉しいです。特に参加って言葉が嬉しいです。ありがとうございます・・・！ちなみに、以前から子どもの貧困っていう問題はご存知でしたか？

**田中** 自分自身がそうだったってこともあるので、興味はありました。できることがあれば何かしたいという気持ちは前からあって。自分のことで精一杯だった時は難しかったんですけど。仕事で東京に住んだ時に無料塾に足を運んだことがあるんですけど、それもやっぱり自分事だったからかなと。

### 「居場所」のインパクト

**渡** 実際に頂いたご寄付を使って出来た教室なんですけど来られてみてどうですか？

**田中** とにかく綺麗だなと。内覧会の時に来させてもらったんですけど、その時に居場所っていう話を初めてお聞き

したんですよ。そのインパクトが自分にはすごく大きくて。自分も子どもの頃居場所が欲しいと思ってたんですけど、塾が居場所になるし、そういう塾であろうとしているんだってことのインパクトがものすごく大きかった。

### 「そういう未来が来て欲しい」

**渡** 最後になるんですが、田中さんにとって寄付をするってどんな意味を持ってるんですか？

**田中** 自分場合は一言で言うと共感を表現する手段の一つです。こんな人たちがいて、こんな課題があって、こういう風に解決をしたい。その目指している未来や、目指している世界に共感した時に寄付をすることが多いです。今回寄付したのも、すべてのひとり親家庭の子どもたちに居場所と教育が得られるような場所があって欲しい、そういう未来が来てほしいと思ったからなんです。

**渡** いや、本当に嬉しいです。同い年で、境遇も同じ人からこれだけ言ってもらえて、すごく勇気をもらいました。ぜひこれからもいろんな形で関わっていただけたら嬉しいです！

**田中** もちろんです！こちらこそよろしくをお願いします！

## 応援メッセージ

過去の自分と  
同じ境遇にいる子どもたちを、  
寄付というかたちで応援したいと思っています。

寄付者 田中裕也さん

高校のときに親が離婚し  
(捕まえて離婚届にサインさせ  
ました!)、住居の確保や借  
金の返済に奔走する姿を見  
て、進学せずに就職するか  
悩み、精神的にも応えました。



その後たくさんの支えがあ  
り、無事進学・卒業できまし  
たが、学習の場としても居場所としても、塾に行っていたら良かった  
と思うようになりました。

渡塾を知るきっかけは校舎の再建プロジェクトでしたが、教育のみ  
ならず、子どもたちの「第2の家」を届けているという話にとても共  
感して、自分も何らかの形で関わってあげたいと思い、わずかながら  
ご寄付させていただきました。

これからもぜひ、子どもたちの大切な居場所を届け続けてくださ  
い。微力ながら応援しております!

安心して勉強できる、  
勉強以外の悩みも相談できる、  
子どもにとって渡塾は特別な場所です。

渡塾に通う子どもの保護者さん

子どもが中学2年生の頃に離婚をしました。それまで友達と楽しく  
大手の進学塾に通い、勉強もそれなりに頑張っていた息子でしたが、  
経済的な理由から辞めざるをえませんでした。

前向きに勉強を続けられる環境をどうにか見つけてやりたいと探し  
ていたところ渡塾の存在を知り、即体験を申し込みました。

母である私の希望は、なによりも不安の中にいる息子に居場所が  
あるよという安心感と、男同士でわからない事を聞いてあげてほ  
しいと伝えたところ、「居場所がある安心感は任せてください!」と  
言っていたが私が安心させてもらいました。

高校3年、いよいよ本格的な受験です。奨学金制度というありが  
たい制度で通塾させていただいた4年を無駄にしないよう、最後ま  
で子どもと一緒に頑張りたいと思います。

いつも応援してくれる、  
真剣に向き合ってくれる先生に出会って、  
夢に向かえる子どもが増えてほしいです。

渡塾生徒 吉田郁人くん

僕には、理学療法士になりたいという夢があります。きっかけは小  
学6年生の時でした。

当時僕は引っ越したばかりで、学校にもなじまず、家庭では親の  
彼氏のDVで恐怖し、さらには骨折までしてと散々でした。そのリハ  
ビリで出会ったのが理学療法士でした。

折れて動かなかった腕が動くようになる。当時の僕にとってはす  
ごく大きなことでした。この時から、自分も理学療法士として誰かの  
支えになりたいと思いつけています。

中学時代には親が自殺しそうに  
なったこともありましたが、それ  
でも僕は、夢に向かって勉強を頑  
張ることができる環境にあります。

一人でも多くの子どもが、僕  
のように夢に向かって頑張ること  
ができるように応援してもらえたら嬉  
しいです。



生徒から講師へ。  
一緒に子どもたちを支えてくれる人たちが  
これからもっと増えてほしいです。

渡塾講師 池田達拓くん

僕が渡塾に出会ったのは中学2年の頃でした。両親が離婚し、ひ  
と親家庭で育った当時の僕は、誰にも言えない悩みと、漠然とし  
た不安がありました。

そんなとき渡塾で、ひとり親家庭で育った大学生の先生たちに出  
会いました。お兄ちゃんのような存在で、かっこいいなと思いました。  
僕もこんな風になれるのかな、と。

それから8年経ち、僕は渡塾で講師として活動しています。少し年  
上のお兄さんとして話をしたり、一緒に勉強したりしています。とて



も元気をもらえる、素敵な  
場所です。

この素敵な場所を、寄  
付という形で一緒に支えて  
くれる人が一人でも増えて  
ほしいと願っています。応  
援、よろしくお願ひしま  
す!

## 2018年度の会計報告

活動計算書(2018年4月1日4~2019年3月31日) (円)

経常増減の部	
<b>【経常収益】</b>	
受取寄付金	18,380,575
受取助成金	30,989,059
事業収益	20,531,028
その他収益	621,750
<b>経常収益計</b>	<b>70,522,412</b>
経常費用	
(事業費)	
人件費	4,983,894
その他事業費	10,979,870
<b>事業費計</b>	<b>15,963,764</b>
(管理費)	
人件費	28,431,088
その他管理費	10,051,115
<b>管理費計</b>	<b>38,482,203</b>
正味財産増減の部	
税引前当期正味財産増減額	16,076,445
法人税、住民税及び事業税	70,000
当期正味財産増減額	16,006,445
前期繰越正味財産額	▲ 6,245,673
次期繰越正味財産額	9,760,772

貸借対照表(2019年3月31日)

資産の部		負債の部	
<b>【流動資産】</b>		<b>【流動負債】</b>	
現金・預金	14,461,947	前受金	14,810,941
		未払法人税等	853,300
<b>【固定資産】</b>		<b>経常収益計</b>	<b>15,664,241</b>
建物附属設備	6,994,323	正味財産の部	
什器備品	1,908,769	前期繰越正味財産額	▲6,245,673
敷金	1,430,000	当期正味財産増減額	16,006,445
長期前払費用	629,974	<b>経常収益計</b>	<b>9,760,772</b>
<b>経常収益計</b>	<b>25,425,013</b>	<b>負債の部計</b>	<b>25,425,013</b>

活動計算書及び貸借対照表は、法令及び定款にしたがい、法人の損益及び  
財産の状況を適正に表示しているものと認めます。

監事

相崎文彦

月1000円のご寄付で、

子どもたちの将来を支えられます。

ひとり親家庭で育った子どもたちは、保護者が毎日の生活のために一生懸命働いている  
背中を見て育っています。そんな中、勉強がしたくても親に「塾に行きたい」となかな  
か言い出せずにいる子も少なくありません。そんな子どもたちのためにご支援をしてく  
ださるサポーターの方を募集しています。詳しくは web サイトをご覧ください。



ひとり親家庭の現状や、  
あっとすくーの支援を  
実際に受けた子どもたちの声も紹介中!

▶ <https://atto-school.com/attocrew>